

FAIRPLAY NEWS

フェアプレイで
日本を元気に
あきらめ、あきらめ、あきらめ



自他共栄～互いを高め合った敗北～

昨年開催された「日本フェアプレイ大賞2014」で正々堂々賞を受賞した藤本聡さんの応募作品を漫画にしました。

① 視覚障害のある私（藤本）は幼い頃から柔道で心身を鍛えてきました

② パラリンピックのアトランタ、シドニー、アテネ大会で三大会連続、66kg級金メダル

③ そして次の世界大会やパラリンピックに向けて練習に打ち込んでいるなか、国内にライバルが登場

④ アテネ大会 60kg級で銀メダルを獲得した広瀬選手が階級を上げてきたのです

⑤ パラリンピックロンドン大会 男子 66kg級代表決定戦

⑥ 試合は広瀬選手が勝ちロンドン大会の出場権を獲得

⑦ 私は礼をするとすぐに広瀬選手に握手を求めました

⑧ 悔しいけれど、広瀬とはお互いに高め合ってきたから感謝の気持ちで一杯です

⑨ 負けた時こそ相手に敬意を払う。そして信頼し合う心を育み、自分も他人も共に生きていく世の中しようとする。「自他共栄」という柔道の大切な考えをこの試合で表せたと思います

※自他共栄の考え方は、日本体育協会の設立の理念でもあります。



オリンピックへの道

JOCエリートアカデミー

日本の力を結集して、未来のオリンピック選手を育てる。

日本全国から選ばれた中学・高校年代の選手達が親元を離れて暮らし、世界での活躍を目指しているところがあります。「JOCエリートアカデミー」。ここでは「競技力」はもちろん、トップアスリートとして必要な「知的能力」「生活力」の向上を目的に、高度な練習はもちろんのこと、さまざまなプログラムを積み重ねています。現在は、レスリング、卓球、フェンシング、水泳（飛込）、ライフル射撃、の5競技で47名が所属。すでに世界の大会で好成績を出している選手もいて、今後のオリンピックでの活躍が、大いに期待されています。



フェンシングの練習風景。専任のトップレベルの指導者が長期的・集中的に指導。

ライフル射撃の練習場。

日本のトップアスリートと触れ合うことで、競技に対する心構えや態度を養える。



手押し相撲



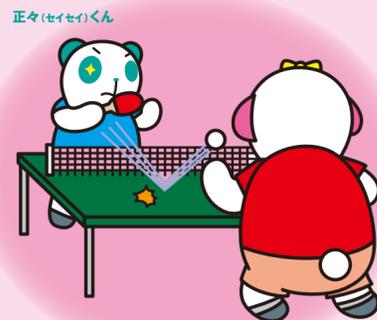
- ①二人で向かい合います。
- ②手のひらを押し合ったり、引いて相手のバランスをくずしたりします。
- ③足が浮いたり動いたら負け！

さあ、やってみよう！

日本体育協会「アクティブ・チャイルド・プログラム」より



フェアプレイ語録



堂々(ドウドウ)ちゃん

オリンピック北京大会、ロンドン大会の日本代表選手。この言葉は、「夢に向かっていく過程で人は成長していきと思っています」と続く。一つの夢が達成できなくても、立ち止まらず次の夢へ進むことが大切。

「夢は叶えるためにあるもの。無理なら新しい夢を作ればいい。」

水谷隼(卓球選手)

